

2024年活動スローガン「バザー続けて80回 手をつなごう 世界の子ども達のために」



報 告 2024年7月～9月支援分

イベント情報

〈バングラデシュ〉

●その他の寄付

- ・佐賀県のNPO法人「POSA」よりエンゼルホームの診療所に眼科医療機器「オートレフラクトメーター」
- ・会員有志の方よりエンゼルホームの図書室に図書274冊

〈国内活動〉

●あおぞら食堂「エンゼル」

- ・ひょうごフィールドバビリオン県民モニターとして尼崎運河探検クルーズを体験
- ・一般財団法人篠原欣子記念財団よりフルーツの購入費として50,000円をいただきました。



〈報告〉

●チャリティコンサート報告

9月16日、伊丹アイフォニックホールに於いて「チャリティコンサート2024」を開催しました。現地責任者アジズル・バリ氏による講演やエンゼルホーム卒業生の紹介、ホームの元先生によるバングラデシュのダンス、混声合唱団「エンゼル」のコーラスやANJiさんによるミニライブと盛りだくさんの内容で行われました。この日ご協力いただいた募金はバングラデシュの子ども達の教育支援に役立てさせていただきます。



編集後記

「最初はグー!じゃんけんホイ!」我が家では一本の缶ビールを分け合って、じゃんけんに勝ったほうが先にのどを潤します。こうして金婚式をすでに終えた私達の夕食が始まります。どちらが勝っても同じ量ですが、勝った方は思わず「やった!」と顔がほころびます。一日一回顔を見合わせて小さな喜びと幸せを味わう毎日です。

2024年 行事予定

10月現在

10月	23日(水)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市
	26日(土)	チャリティバザー	海南市民交流センター	海南市
	29日(火)～11月4日(月)	ノクシカタ販売	高円寺ギャラリーR	東京都
11月	3日(日)	チャリティバザー	であい市門戸厄神	西宮市
	9日(土)	チャリティバザー	スーパーニシヤマ三田店	三田市
	19日(火)	チャリティバザー	JR六甲道南公園	神戸市
	30日(土)	チャリティバザー	名谷駅前広場	神戸市
12月	2日(月)～9日(月)	バングラデシュツアー	バングラデシュ	伊丹市
	21日(土)	街頭募金	JR天王寺駅前	大阪市

※行事予定はホームページ上にも掲載、随時更新しています。

秋のチャリティバザー

10/23(水)

場所：本協会ボランティアセンター（伊丹市）
時間：10:00～14:00

●チャリティバザーにご協力ください●

バザーで販売する品物のご提供をお願いしています。食器・なべ類、シーツ、タオル、衣料、食料品、石鹸、カバン、おもちゃなどいつでも受け付けています。ご近所でしたら引き取りに伺います。事務所までご連絡下さい。

☆取り扱っていないもの☆

家具、大型電化製品、自転車、使用済み食器等

バングラデシュ・スタディツアー参加者募集

12月2日(月)～9日(月)

※詳細は事務所までお訪ねください。

会員募集

本協会の活動は皆さまの会費の他、募金や寄付金、バザーなどのチャリティイベントの収益金によって支えられています。ご協力をお願いいたします。

●正会員

一般会員 年額1口 6,000円

特別会員 年額1口30,000円

●DCEF会員(教育里親)

1ヵ月1口 2,000円

※送金方法は現金書留又は郵便振替でお送り下さい。

郵便自動払込方法も受付けています。

郵便振替・口座番号

01130-1-59586

※その他、バザー用物資によるご協力もよりしく願います。

会員数：一般会員 617名

DCEF会員 547名

(10月1日現在)

ANGEL NEWS

通巻209号
2024.10

小学校での夏祭りの様子

優しい子ども達に触れて

今年も近くの小学校で夏祭りがおこなわれました。色とりどりの浴衣を着た子ども達、親子連れ、この学校の生徒や卒業生など、多くの子ども達がやってきました。

国際エンゼル協会も毎年、カレーとミニバザーを出店させていただいています。バザーでは子ども達のおこづかいで買えるようなぬいぐるみや小物などを中心に販売しており、毎年たくさん子ども達が楽しみに来てくれます。「お母さんにプレゼントするの」「妹に買ってあげよう」「弟に買ってあげる」と自分のためだけでなく両親や兄弟のために買うものを探している子もいて、その姿を見るととても微笑ましく私達も温かい気持ちになります。「なんでお母さんに買うの?」と尋ねる友達に「だってお母さん毎日ご飯作ってくれるもん」と答えている子。こんな会話を聞いていると、日本の子ども達は幸福度が低いと言われていますが「こんな幸せな家庭がたくさんあるんだ、言われるほど幸福度が低いことなんてないな」と思うのです。

また、毎月おこなっている子ども食堂では、子ども達が学年を越えて、そしてボランティアにきている高校生や大学生のお兄さん、お姉さんと一緒に楽しそうに遊んでいる姿が見られます。こうした親や家族を思う姿や年齢を越えて遊ぶ光景は、バングラデシュの子ども達と重なって見えます。この純粋な心を変わず持ち続けて育てて欲しい、子ども達が笑顔で過ごせる場所を作っていきたい、そんなことを願いながら私も優しく、そしていきいき生きていこうと思うのです。

代表理事 東村 真理子

発行者



認定特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784) 7504 FAX.072(784) 4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp



ホームページ



エンゼルホームの子ども達

バングラデシュでは父親が病気や事故などで亡くなると、残された母親と子ども達は国からの生活保障が不十分でたちまち困窮してしまいます。エンゼルホームではそうした境遇の子ども達が学校へ通い続けられるようにサポートし、将来自立出来るようになるまで支援しています。新しく入った子どもは最初家族と離れた寂しさに戸惑いを見せることもありますが、新しい環境にすぐに馴染んで子どもらしい笑顔で毎日元気に過ごしています。この子達の将来がどのように花開いていくのかとても楽しみです。

新しい子ども

サミヤちゃん Ms.Samiya

○生年月日：2016年7月12日(8歳)、出身地：ガジプール県カバシア郡チャウラバラ村

サミヤちゃんは動物好きの明るく元気な女の子です。彼女は1歳の時にお父さんを亡くし、お母さんとお兄ちゃんの3人家族になりました。しかし5年前にお母さんがケガをして働けなくなり、生活に困ってしまいお兄ちゃんがエンゼルホームで生活することになりました。その後お母さんのケガも良くなり働けるようにはなったのですが、生活が一向に良くならず、今年の8月にサミヤちゃんもエンゼルホームで生活することになりました。

お兄ちゃんがいたおかげで、エンゼルホームでの生活にはすぐに慣れたようです。毎日 YURIKOエンゼルスクールに通い、ホームに帰宅後はみんなで縄跳びなどして楽しく生活しています。彼女に将来の夢を尋ねたところ、医者になって皆を救ってあげたいと答えてくれました。彼女が夢に向かって勉強を続けられるよう、これからも皆様のご支援よろしくお願い致します。



卒業生

タヘル君からの便り

私は2023年12月に日本の会社で働くため来日しました。初めて日本に来た当初、いろいろな事がバングラデシュと違い、驚くことばかりでした。一番印象的だったのは電車です。バングラデシュでは機関車しかないので電車をみたことも乗ったこともなく、初めて一人で電車に乗った時はとても緊張しました。まだ日本語が上手ではなかったため、駅の名前を覚えることが難しかったです。また目的地まで間違えずに乗り換えをすることに苦心しました。日本では一人暮らしのため、日々の買い物にも苦労しました。スーパーマーケットで買い物をする時も、難しい日本語が読めず苦労しましたが、幸いにも周りの方が親切に教えてくれたおかげで大きな失敗をすることはありませんでした。

日本に来てから半年間、働きながら日本語学校にも通わせてもらいました。日本語学校では様々な国の人と出会いました。日本語の勉強に加え、色々な人との関わりが私の世界観を大きく広げてくれました。会社では言葉も不慣れで不安でしたが、周りの皆さんは私が早く慣れるようにととても親切に教えてくださいました。

また休日には国際エンゼル協会のバザーのお手伝いをすることができました。私を子どもの頃から支えてくださった皆さんと一緒に、バングラデシュの子ども達の為にボランティア活動ができたことをとても嬉しく感じました。皆さんの活動のおかげで、より一層日本とバングラデシュの友好関係が深まっていくことを心から願っています。

最後になりましたが、私が大人になるまで支えてくださった国際エンゼル協会の皆様、そして日本で働くようになり仕事や病院のことなど、私が困らないようにと手助けしてくださった会社の皆様へ、心よりお礼申し上げます。ありがとうございます、これからもどうぞよろしくお願い致します。

アブ・タヘル・シディック

1994年12月生まれ。(29歳)
2006年から2010年までエンゼルホームで生活する。
ホームを卒業後は高校へ進学、その後ダッカ土木専門学校卒業。
2023年12月より来日し、大阪にある安積濃紙株式会社へ入社。



バングラデシュのニュース



7月にバングラデシュで学生による大規模なデモが起こりました。デモは数日間続き、一時落ち着いたかに見えましたが8月に入り再度大規模なデモが発生し、首相が辞任し亡命する事態に発展しました。この騒動で犠牲になった方は1,000人を超えました。なぜこのような大規模なデモが起こったのでしょうか。それにはバングラデシュが抱える社会問題が大きく関係しています。

デモの発端は高等裁判所による独立戦争時の軍人(フリーダムファイター)の親族に対しての公務員採用優遇制度についての判決です。バングラデシュの公務員は高給で優遇制度も多く、非常に人気の職となっています。この公務員を採用する際、採用枠の内30%をフリーダムファイターの親族に割り当てる「クオータ制度」という制度がありました。この制度に対しては批判も多く、2018年に同制度の廃止を求めるデモがあり、結果制度の廃止が決定しました。しかし廃止に向けての具体的なロードマップは示されず、事実上この優遇制度は続いていました。そして2024年6月に高等裁判所がこの制度を廃止することは違憲である(優遇制度を正式に継続する)判決を出しました。この判決に対してバングラデシュの学生達は各地で抗議集会を行い、制度の廃止を求めていきました。

これらの抗議運動に対し、バングラデシュ政府は強い言葉や態度で対応しました。その結果デモは拡大していき、さらに警察によるデモ鎮圧の際に学生に犠牲者が出てしまいました。それによりデモ隊が暴徒化し、その中にこの2月に選挙で負けた野党側の人間も加わり、暴動は首都ダッカ市内だけにとどまらず近隣の都市にも広がっていきました。警官による治安維持だけでは抑えることができなくなり、戒厳令が出され、実弾装備した軍隊の派遣や終日外出制限、また電話やインターネットなどの通信も遮断されました。その上で最高裁判所により30%の優遇枠を5%に削減する判決が出されました。この判決後デモは縮小され事態が落ち着いていくかに思われたのですが、この政府の強権的な対応に不満を持った人達により反政府デモへと発展しました。

今回のデモの背景にはバングラデシュが抱える社会問題が大きく関係しています。バングラデシュでは近年進学率が向上し、大学まで通う学生が増えています。ただ、多くの学生が厳しい経済状況にあり、様々な補助金や奨学金を活用したり、学業の傍らにアルバイトをしたり、また家族や親族が土地などを売ったりして学費を工面しています。しかし経済的に大きな負担をしてまで卒業したにも関わらず、それに見合った給与や待遇の職は多くありません。バングラデシュの多くの若者達が満足な就職先が見つからず、将来に不安を持って生活しています。こうした将来への不安に加え、強権的な長期政権への不満が爆発し、今回ここまで大きな騒動へと発展してしまいました。

一昔前はアジア最貧国と言われたバングラデシュも今急速に発展しています。しかしこうした急速な発展には必ず取り残されてしまう人がいます。そうした中で、私達はバングラデシュの子ども達が夢を持って成長し、学び、夢を実現できるよう支え続けていきたいと思っています。将来子ども達が不安や不満を感じる事無く就職し、幸せな生活を送ることができるよう、バングラデシュの社会が今よりもっと良くなることを願っています。最後になりましたが、今回の騒動で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたします。

事務局長 東村 良平

